

「全国で優勝する！」
それが郡山第四中学校陸上部の合言葉。昨年8月に行われた全国中学校体育大会(以下全中)では、男子3千m優勝、1千500m4位の遠藤日向さん、男子走高跳6位の鈴木智成さんと3種目で入賞を果たしました。他にも男子400mの大河内拓海さん、女子800mの中原奈美さんも全中に出場するなど大活躍。
その活躍について顧問の鈴木貞喜先生は「一人ひとりの意識が高く、考え方もポジティブ。全国大会に出るだけでもすごい」



郡山第四中学校陸上部の皆さん

未来へ駆け抜ける！



先頭を走る遠藤さん。阿武隈川沿いのサイクリングロードを軽快に走り抜けます。

のに、優勝するという目標も現実にしてしまいました。」と教え子たちの成長に驚いていました。
しかし、このような輝かしい実績を残した陸上部も順風満帆というわけではありませんでした。今の3年生が入学してきた当時は震災直後。屋外活動が制限され、屋内練習ばかりでした。その当時を主将の大河内さんは「屋内の練習ばかりで、とにかく外を走りたくてしょうがなかった。今は走れる喜びでいっぱいです。」と振り返ります。
そんな苦労があつての今の活躍。2020年には東京オリンピックが開催されます。全国チャンピオン遠藤さんの夢。「箱根駅伝で活躍し、東京オリンピックに出場する！」。子どもたちの夢は未来に向かって走り出しています。

3.11から3年～未来へつなぐ
確かな歩み

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故からまもなく3年がたとうとしています。市制施行90周年・合併50年の節目となる2014年。郡山は、どのような状況にあるのでしょうか。さまざまな数字を見ながら振り返ってみましょう。



千葉県船橋市立葛飾中学校 管弦楽部 部長 池本梨々花さん

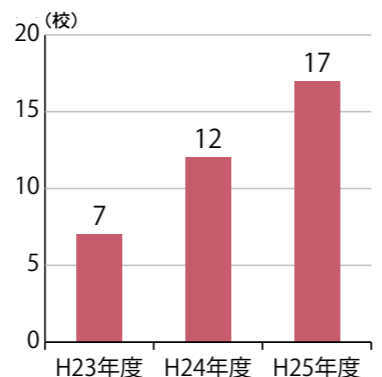
私たち葛飾中学校管弦楽部は、130人の部員がより良い音楽を作り上げるために、日々練習に励んでいます。今年度、TBS子ども音楽コンクールにおいて、念願の全国優勝を果たすことができました。

以前、コンクール出場のため郡山市を訪れたことがありましたが、皆さんの生活に音楽が根付いていることを実感し、まさに「音楽都市」と呼ぶにふさわしいまちだなという印象を受けました。私たちと同世代の中学生が、震災で大きな被害を受けたにもかかわらず、震災前以上に素晴らしい演奏を響かせるその姿に、音楽の力や復興への強い思いを感じ、とても心打たれました。また、技術面もすばらしく、演奏を聴くたびに私たちの課題も見えてくるので勉強になります。

住む場所は違っても、音楽を愛する気持ちは同じです。お互い、聞く人に感動を届けられる、そんな演奏を目指して頑張っていきたいと思います。



合唱・合奏などの
主な全国大会入賞校推移(延べ)



ました。10年、20年後も、これからの未来、郡山が誇る音楽の宝である子どもたちが今以上に活躍できるよう、みんなで応援しましょう！

音楽のチカラ
震災前から全国にその名をどろかせてきた郡山の学校音楽。各学校は震災後、窮地に追い込まれました。校舎が被災し、練習どころではない学校も。そんな厳しい環境でも、「私たちにできることは歌うこと」を合言葉に、避難所で慰問を行う学校もありました。心のこもったハーモニーに大粒の涙を流す方もいました。
平成23年度、震災という逆境を乗り越え、朝日が丘小学校、郡山第二中学校、郡山第五中学校、安積黎明高校が合唱や合奏の全国大会で日本一に輝きました。子どもたちの活躍は、全国に郡山の元気を発信するとともに

全国に発信する
ハーモニー
着実に前に進む郡山と同じように、学校音楽の活躍はどこまでもところを知りません。合唱・合奏などの全国大会での入賞校は、今年度延べ17校(1月31日現在)を数え、郡山が誇るハーモニーを全国の舞台で奏でました。子どもたちの活躍。それは部員一人ひとりの努力はもちろん、顧問の先生や学校、保護者、関係者、そして地域の皆さんの応援があったからこそではないでしょうか。
震災前も震災後も私たちは学校音楽からチカラをもらってき

未来へ奏でる！

01 未来を担う
子どもたちの今

震災にも負けず、強く、たくましく生活してきた子どもたち。さまざまな場面で活躍する子どもたちの姿に、私たち大人は大きなチカラをもらいました。

に、市民のみならず、福島県民にも勇気と感動を届けました。